

国際交流協会ニュース

— Ichihara International Association —

2021年3月23日 発行 市原市国際交流協会
〒290-8501 市原市国分寺台中央1-1-1 市原市役所 人権・国際課内
TEL 0436-23-9826 FAX 0436-21-0332
e-mail: iia@city.ichihara.lg.jp
ホームページアドレス <https://iia-ichihara.org/>



関東の鎌倉古道-現代の高速網と殆ど同じ



セネガル地図-ライオンの横顔の形・首都ダカール

■ リモート講演会 「市原の古道—鎌倉街道上総路」

■ やさしい国際理解セミナー

「世界は広い だからおもしろい」 セネガル共和国

■ あの人・この人 会員紹介

■ I.I.A.レポート

- 第11回運営委員会 リモートで開催
- IIAホームページを活用下さい
- 牛久小が姉妹都市モビールとテレビ電話で交流

リモート講演会 市原の古道—鎌倉街道上総路 2020.11.21
講師 小関 勇次氏



尾根道 切通の道・安須高坂

皆様もご存知の通り、昨年1月末勃発した新型コロナウイルスの世界的なパンデミックはあっという間に世界中を席卷し、市原市国際交流協会も多大な影響を被り、2020年2月以降の殆どの事業が中止となってしまった。6月に予定されていた「世界遺産」に関する講演会も中止となった。そこで企画したのが今回のZOOMを利用したリモート講演会である。計画を始めた9月当時まだZOOMにも慣れず五里霧中で検討を進めていた。国際交流協会であることから、世界を知ろうという趣旨での企画がこれまでは多かったが、コロナ禍で世界中の国際線がとまる中、国外に出かけていくことが殆ど不可能な折、そうした話題は相応しくないと判断され、この際コロナパンデミックが明け、外国からお客様を迎え入れた時、会員一人一人が市原の歴史を語れるようなそんな話題作りのテーマが宜しかろうということになり、今回の企画となった。講師には市原市在住でこれまで余り知られていなかった鎌倉街道に着目し「鎌倉街道を歩く会」を結成し、10年に渡り地道なフィールドワークを続けてこられた小関勇次氏にお願いすることとした。小関氏は高校の社会科教師をされてきたが、その後大学で地理学の修士課程を終了、現在は清和大学特任教授の他、複数の大学での講師を務めておられ

る。使用ソフトのZOOMは、コロナ騒動により急に脚光を浴びたツールだが、仲間内のZOOM飲み会等はそれほど難しいものではないが、講演会となると色々使い勝手等分らないことだらけだった。この点では幸い小関先生が大学の講義でZOOMを使い慣れておられたので非常に助かった。それでもリハーサルを2回行い動作確認をした。その中で当初動画を投影し、臨場感を高めようと試みたが、中々うまく動かないということでパワーポイント1本に絞る等の紆余曲折



街道沿いに点在する八幡神社・鶴嶺八幡

があった。さて11月21日当日、サンプラザ市原にある国際交流センターをスタジオとして使用。参加者は30名余となった。参加を試みたがどうしても繋がらないときらめられた方等おられたが、最終的に28名の参加者となった。小関先生は楽しい講義をしようということでZOOMの機能を使った簡単なクイズを用意され、イントロとされた。

講義はまず古道の歴史的な成り立ち、中世、近世、現在と異なる街道の在りかたなどせんもん、いせつめい、いちばら、かま方等専門を生かした説明から、市原に鎌倉街道が存在する根拠として8つのポイントを揚げ具体的に説明、それらを解明した「鎌倉街道を歩く会」の活動、市内

外の中高校との関わりに言及され、非常に分かりやすい説明であった。中でも発見された史跡を系統立てて整理し、後代に伝えていく活動として市内外の中高生の取り組みに触れられたのは興味深かった。又「鎌倉街道を歩く会」の活動では、2009年当初は街道周辺は粗大ごみだらけ、指導票、案内板、文献資料も無く、全く認知されない文化財だった状況を、市原市埋蔵文化財センター、袖ヶ浦郷土博物館とも協力して活動を始め、その後市内公民館・コミュニティセンター、中高校との協力するに至り、集大成として研究誌「鎌倉街道を歩く・見る・学ぶ」を2020年3月に発刊した経緯を説明、共感を呼んだ。

講演会後に参加者から頂いたアンケートでは、講演内容については「郷土の知らなかった歴史に触れ、実際に歩いてみたいと思った」、「分かり易い説明で、鎌倉街道に興味を持った」等のコメントが寄せられた。

又、初のリモート講演会に対しての感想としては、「市原でも五井地区からは離れた場所に住んでいるので、リモートで家にいながら参加できるのは良い」、「コロナを気にせず参加できるのは便利」、「ZOOMの講演会は初めてだったが、思ったより易しく操作できた」、「もっとリモートを活用した行事を企画して欲しい」等の意見が寄せられた。



鎌倉街道を歩く会の活動・御所覽塚

「世界は広い だからおもしろい」セネガル共和国

総務部会の今年の定例イベント「やさしい国際理解セミナー」は1月24日に計画されたが、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言のため中止となった。しかし、全ての計画が中止となる中、急遽リモートでの開催を決め2月28日(日)に実施した。短いお知らせ期間の為か、参加者は例年より少ない25名であった。



今年のテーマは「世界は広い、だからおもしろい」セネガル共和国。講師の小川香織さんは、2016-2017年セネガル共和国に派遣された元青年海外協力隊員です。

まずは小川先生の生立ちから――
子供のころの夢、それはFBI捜査官になることでした。学校では勉強よりも私生活が楽しく夢は大きく変わりました。

ところがある日マザーテレサの本に遭遇、彼女の生き方に感銘を覚え、即彼女のもとへ手伝いに行こうと決意。親の反対を顧みずバックパックの一人旅、インドへ。

初めてのボランティア活動を目指したが、そこでは医師でもない看護師でもな

い他にこれと言った資格もない自分に出来るものが何もないことを思い知らされた。帰国後、日本や世界を廻りながら、生活の原点である「食」についてレストランで働きながら勉強した。

そんな体験から、日本の青年海外協力隊の募集要項が目にとまった。これだと思いき早志願した。規定の研修を受け、フランス語も覚え、いざセネガル共和国へ、空路2日で首都ダカールへ。更に任地へ6人乗りタクシーで、満席になる迄発車しない、4時間も待たされる。他に手立ては無い。

任地での役割はセネガル共和国からの要請内容に基づくものでテーマは「女性の自立支援」であった。具体的には、①職業訓練校での技術訓練指導 ②女性グループの生活・収入向上支援である。

日本では日常的に誰でも当たり前に出来る身のまわりの事から始めることにした。シニア海外ボランティアとも一緒に活動する機会があった。日本の教育や技術レベルの高さを自分ながらしみじみと実感した。シニアには敬謙の念でいっぱい!

セネガルとはこんなところ

- ・ざっと言って日本の面積半分は東京都民が生活しているといった感じ!
- ・公用語(共通語)はフランス語

・宗教 95%がイスラム教徒
・気候 暑い(摂氏40~50°)
・多民族国家・大家族・一夫多妻制
日本に負けずと劣らぬ「おもてなし」の国、誰でも受け入れる、困っている人は区別なく誰でも助ける、お金も貸す(但し他人には内緒-返済については神にお任せ)、おらかさ抜群。インシャラー!! 日本人も見習うところがたくさんありますね!

小川先生の真っすぐな目で見られた体験談、人間の知恵と絆の原点に触れたような思いでした。

小川先生の友人でセネガル人のモモさん(市原市在住)が同席参加された。昨年来日されたばかりで日本語はこれくらい。参加者からの質問が多く時間切れ。小川先生、本当にありがとうございます。モモさん頑張ってください。



三田 和夫さん

日本語教室部会に所属し、五井日本語教室でボランティアをしています。平成24年度日本語学習支援ボランティア養成講座の受講がきっかけでした。前職の定年後数年がたち、何かお役に立つことはないかと思っていたところ目にしたのが養成講座でした。講師の先生のお話にも触発され、平成25年度からボランティアを始めて8年が終わろうとしています。

国と国との関係では、色々困難な問題があっても毎週教室に来る学習者とは言葉の課題がありながら、言わば市民同士の話が出来ます。「日本は物価が高いけど安心・安全」など学習者の率直な言葉を聞く事があります。また、それぞれの国の家族観や食べ物、風俗・習慣の事など、教えられることも多くあります。学習者から「今日は楽しかった。教室に来てよかった。」とってもらえるよう、自身の日本語や指導法のブラッシュアップにはげみ、これからも務めたいと思っています。

21.2.19

新型コロナウイルス蔓延防止のための緊急事態宣言の延長で、公的機関の閉鎖が続き第10回運営委員会は中止せざるを得なくなった。新たな試みではあるが多少なりとも前進するために第11回運営委員会をリモートで行う事になった。

運営委員は2年ごとに、運営委員会の規約・細則に基づき最大25名以内で選出される。選出後、会長が委嘱、理事会が承認し、年次総会で公表される。

市原市国際交流協会も最近流行のインターネットソフト「Zoom」を活用できるように、有志が勉強会を立上げた。遅々ではあるが知識の共有に努力しているところだ。

現運営委員は総勢18名、パソコンかスマホで対応できる様にまでになったと思われる。中でも総務部会の伊東さんにZoomクラウドミーティングのホスト役をお願いした結果、非常にスムーズな立上げが可能となった。

I.I.A.レポート

活動報告

2020年11月~2021年2月

今回、初めてZOOMによるリモート会議を実施した。スタートでは少々つまづきが見られたが、時間の経過とともに軌道に乗り始めた。3名の委員は国際交流センターに参加したが、他の皆さんは自宅からの参加でリモートの良さを実感できたと思う。

今後、必要に応じてリモート方式を利用したイベントの実施方法の一つとして活用出来ればと思う。



<https://iia-ichihara.org>



IIAのホームページは活動の案内、報告、会員の情報共有の為のツールとして運営されていますが、残念ながら十分に活用されてきたとは言えません。ハード的にはGeocities社の無料のサービスを利用して容量も100Mと限定的でしたが、一昨年XREA社のサービスに移行し同時に容量も100Gと飛躍的に増大し、独自ドメインを取得しました。担当する総務部会としては、今後更に内容を充実させもっと会員が活用できるサイトにしたいと考えています。要望があればどしどしお寄せ下さい。

牛久小が姉妹都市モバイルとテレビ電話で交流

姉妹都市部会 須貝 克己

この度、牛久小小学生とモバイル市原姉妹都市協会 (MISCA) 間で、インターネット (ZOOM) を利用したテレビ電話交流が行われましたので、当日の様子を紹介します。

- 日時 令和3年1月18日 (月)
午前8時20分~9時20分
(時差15時間のため、モバイル市は午後5時20分~6時20分)
- 場所 市原市立牛久小学校
English Room
- 参加者 牛久小: 6年生生徒 45名
MISCA: 高校生など 9名
(全員に発言してもらうため、15名3班に分かれる)

- 交流の様子
- 牛久小生徒が一人ずつカメラの前に立ち、「氏名、自分の好きなもの (趣味、特技等)」を書いたカードを掲げながら自己紹介をしました。
- その後MISCA側からいくつか質問があり、生徒たちが一生懸命回答していました。また画面を通じて、全員でじゃんけんも行いました。(牛久小英語担当教諭およびMISCA優子ジョーダンさんのサポートあり)
- 今回はコロナ禍のため全員マスクをつけた状態でのテレビ出演?となり、表情まで見てももらえなかったのが残念でした。
- 終了後の生徒の感想

- 最初は緊張して本当にドキドキだった。でも楽しかったし、もっとしゃべりたかった。
- 会話の途中で、相手側の学生さんがうなずいたりしてくれたのがとてもうれしかった。
- 今後の予定
今年度は計3回の交流会を計画しており、次は2月、3月に実施予定。

